

【第6分科会】

ニーズが高まる高次脳機能障がいのある方の
復職支援に関する実践報告からの提言
～誰もが安心して働ける時代を目指して～

- 伊藤真由美（NPO法人クロスジョブ クロスジョブ札幌 所長）
角井由佳（NPO法人クロスジョブ クロスジョブ札幌）
濱田和秀・巴美菜子（NPO法人クロスジョブ）

はじめに

高次脳機能障害のある方の復職ニーズの高まり

- ・札幌市は2020年より**復職目的での就労移行支援の利用が条件付きで可能**
- ・復職相談及び復職目的での利用件数が増加し、地域ニーズとして高まっている

就労移行支援の利用と有効性

- ・病院の環境下では自身の変化について本人には認識しづらく、退院後の支援について周囲（家族や医療関係者）からはイメージしづらい
- ・就労移行支援の利用により、自己理解の促進、補完方法の獲得、企業調整等を行うことで、**就職後の継続率が高くなる**

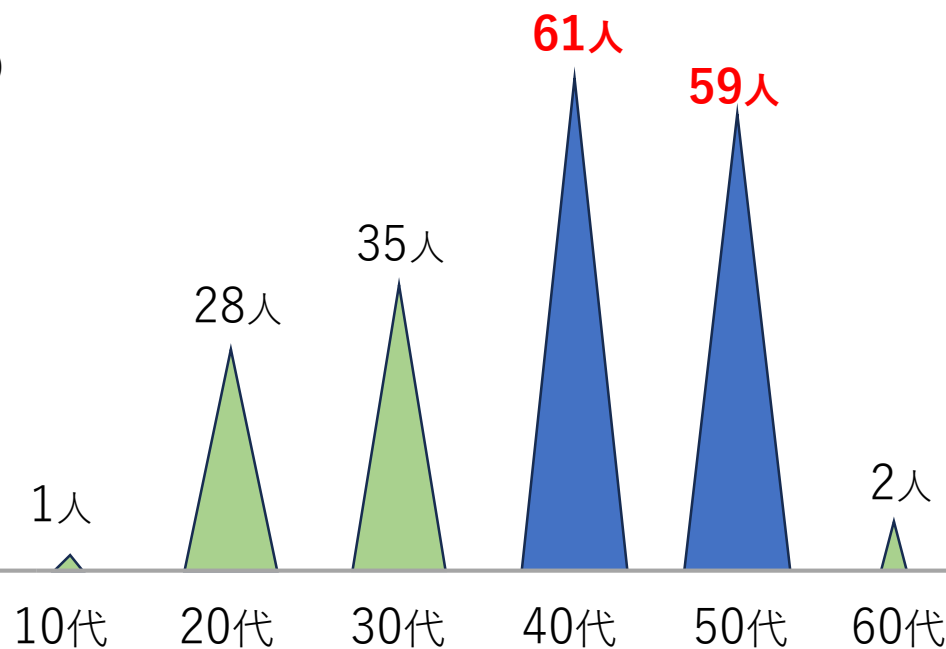
復職事例を通して見えてきた課題から

「高次脳機能障害のある方の復職支援の在り方」について提言する。

統計報告

(2010年4月～2023年3月／n=186)

利用開始時年齢



企業での中核を担う

40～50代が全体の**65%**を占める。

継続的な人材確保が急務な日本において
従業員の職場復帰を推進することが重要。

就職・復職後の状況

利用者の9割が新規就労での就職。

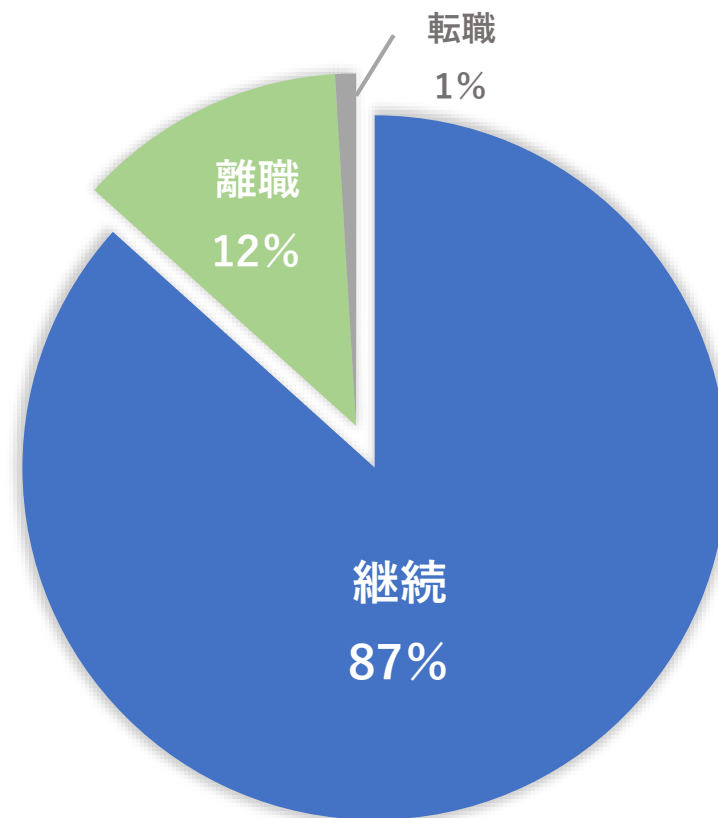
継続率 87%

就労移行支援の有効性が証明できる。

特に復職支援では、メンタル疾患とは異なる

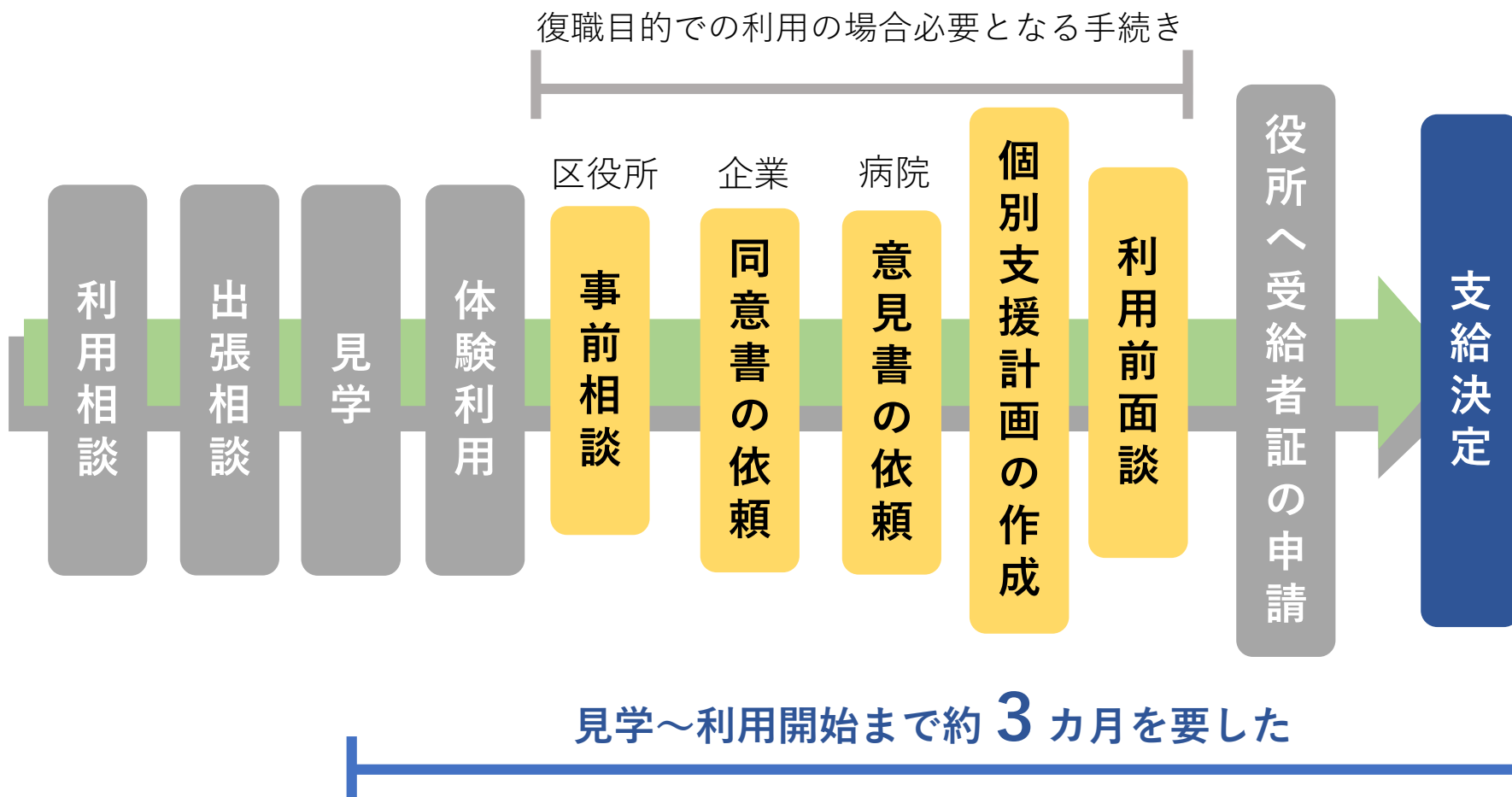
高次脳機能障害の方に合わせた復職プログラムが必

要。

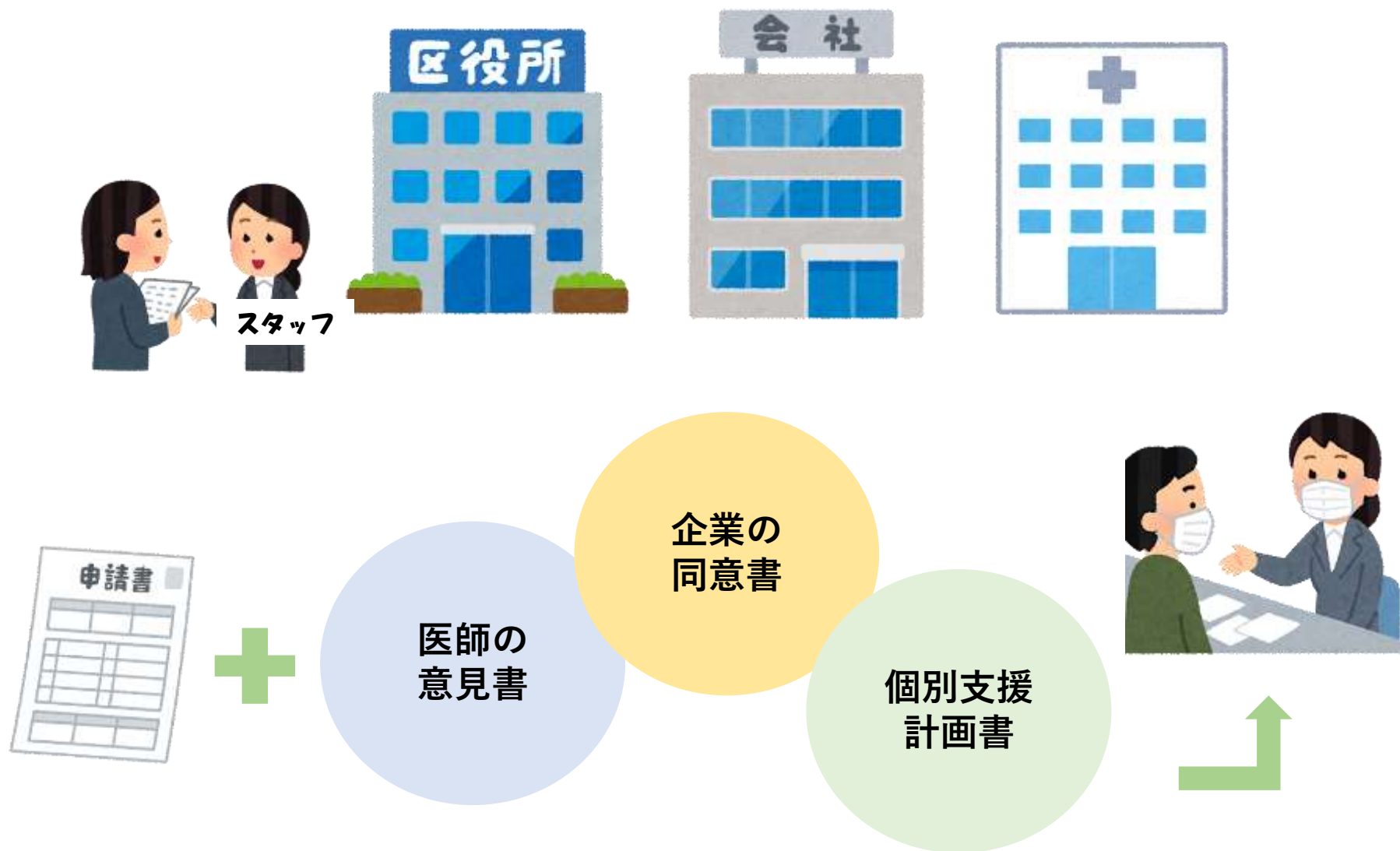


事例紹介

(1) 利用までの経過



(2) 利用調整



(3) 利用開始後

■医療連携



企業への医療的説明や環境アセスメントの実施。

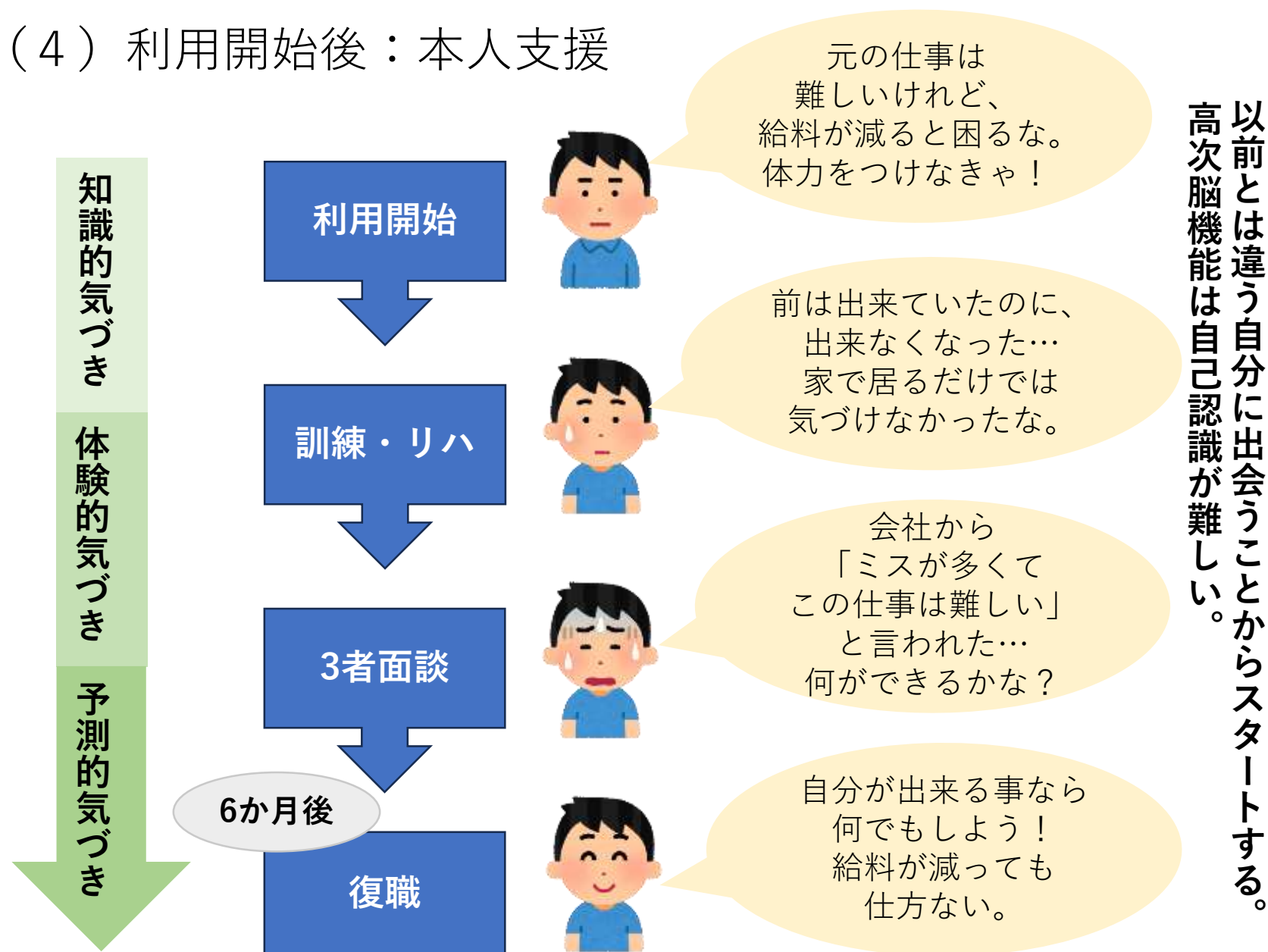
医療～就職まで途切れのない支援が実現。

■復職先企業



前例のない 高次脳機能障害のある方向けの復職プランを一緒に考え進めることが出来た。

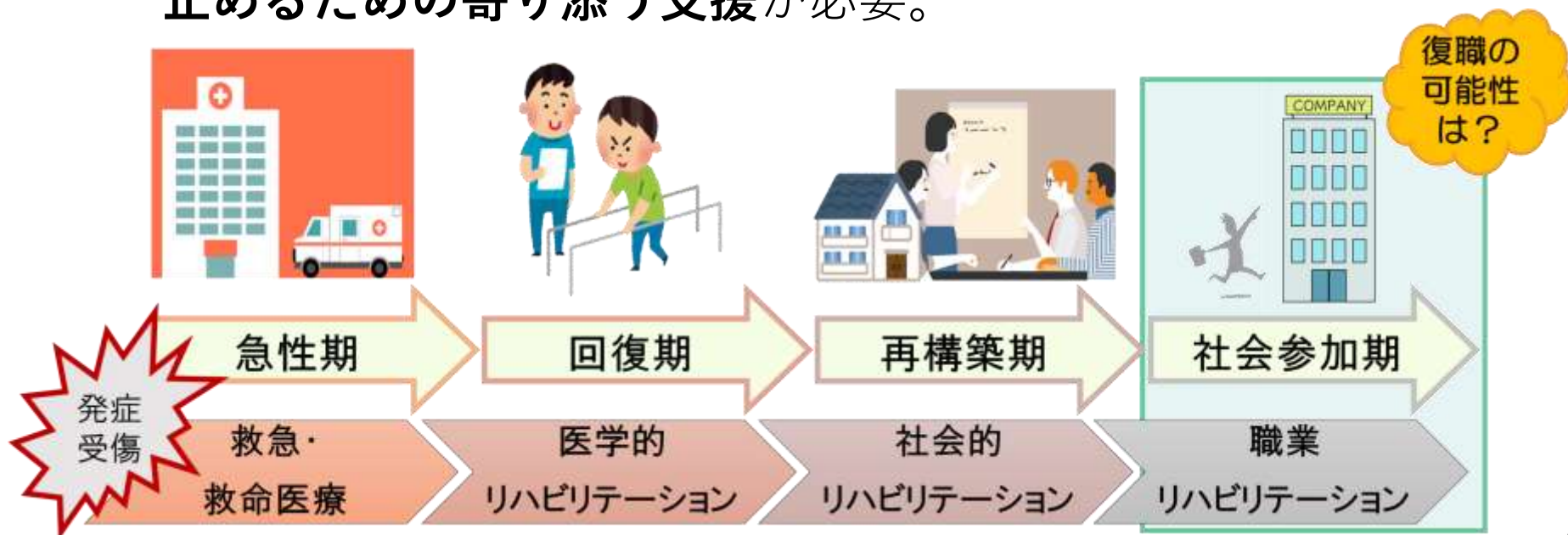
(4) 利用開始後：本人支援



復職支援における課題

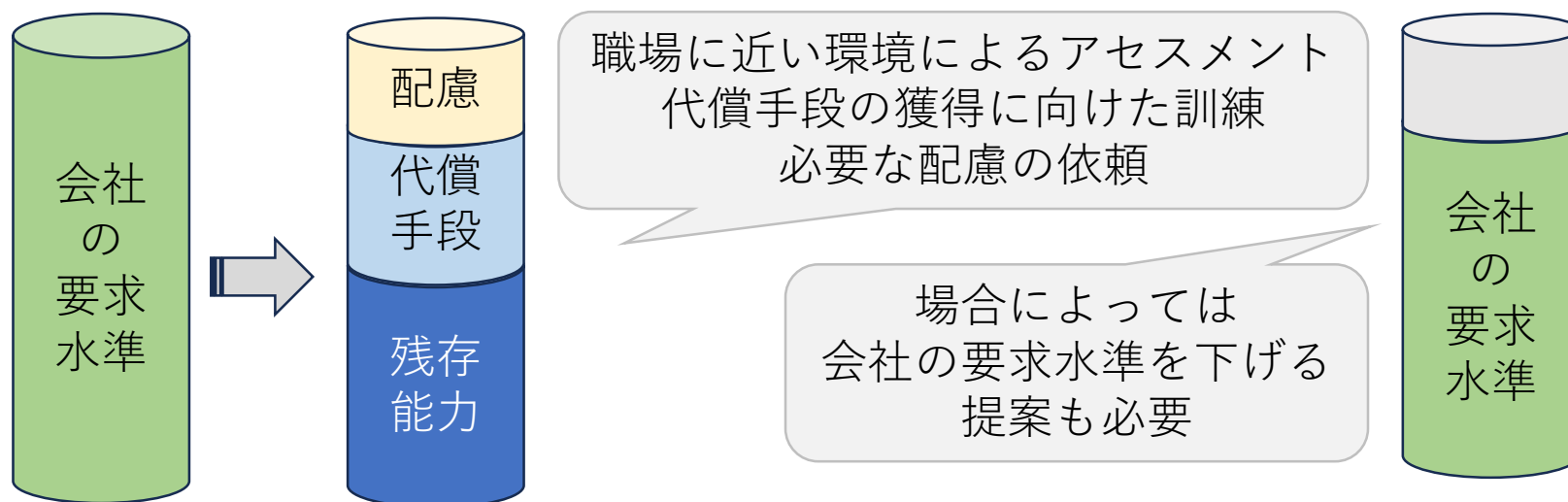
(1) 病院の環境下では受傷後の変化を感じにくい

- **脳の回復状況**や病院という**限られた環境・行動・人との関り**だけでは自身の変化を感じにくい。退院後、自宅や会社の中で変化に気付くことが多い。
- **社会的リハビリテーションの充実**と本人や家族の**変化を受け止めるための寄り添う支援**が必要。



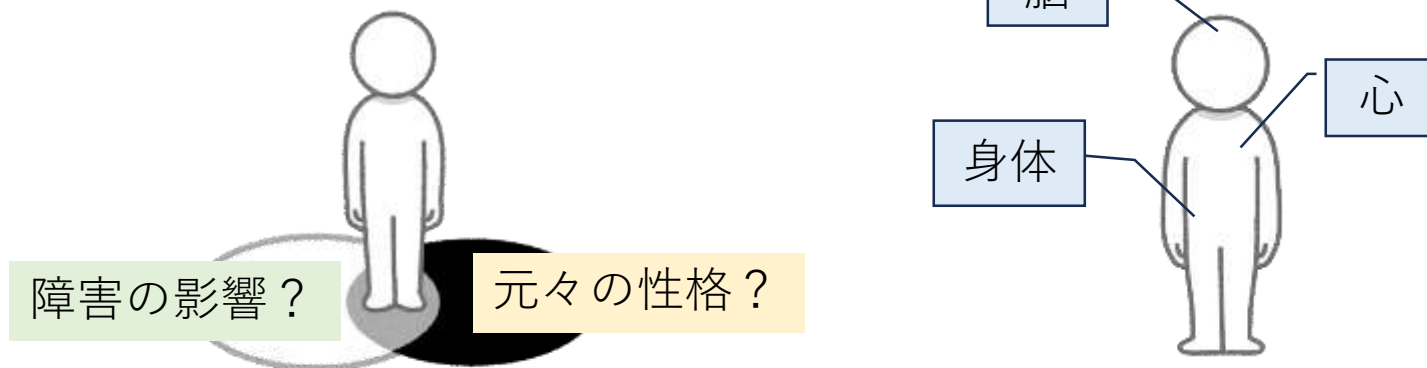
(2) 専門的スキルが問われる

- **脳の回復の流れを理解し、長期的な視点**で関わる必要がある。
- **損傷部位により症状の出方も千差万別**のため、適切にアセスメントを行う事が求められる。
- 特に高次脳機能障害のある方の復職支援においては、**企業調整及び就職後のフォローアップは重要な支援**である。



(3) 適した復職プログラムがない

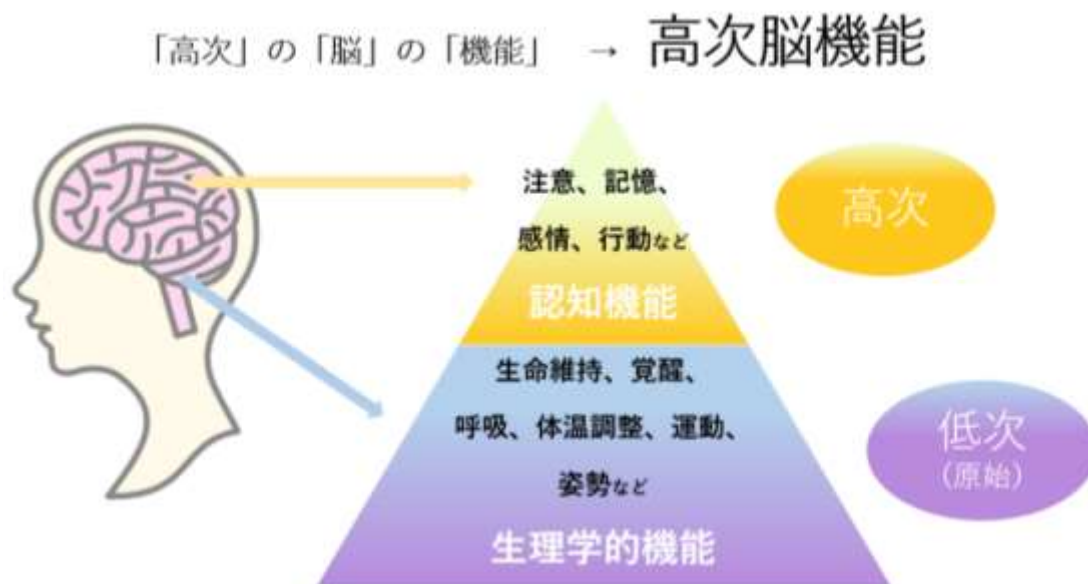
- 医療機関のリワーク支援や企業の復職支援は**メンタルヘルスを対象としたものが多い**。
- 企業が入院中の面会や医師からの説明を受けるだけでは、**本人の状態像（残存能力、回復見込み、後遺障害等）を把握するには限界があり、従業員の復帰に向けた調整は負担が大きい**。
- 支援機関が介入し、本人や会社に合わせ、メンタル疾患とは異なる**高次脳機能障害の理解や特性に対する配慮を含めた復帰プログラムの立案**（業務切り出し、配置転換、目標設定等）をサポートすることが有効。



実践からの提言

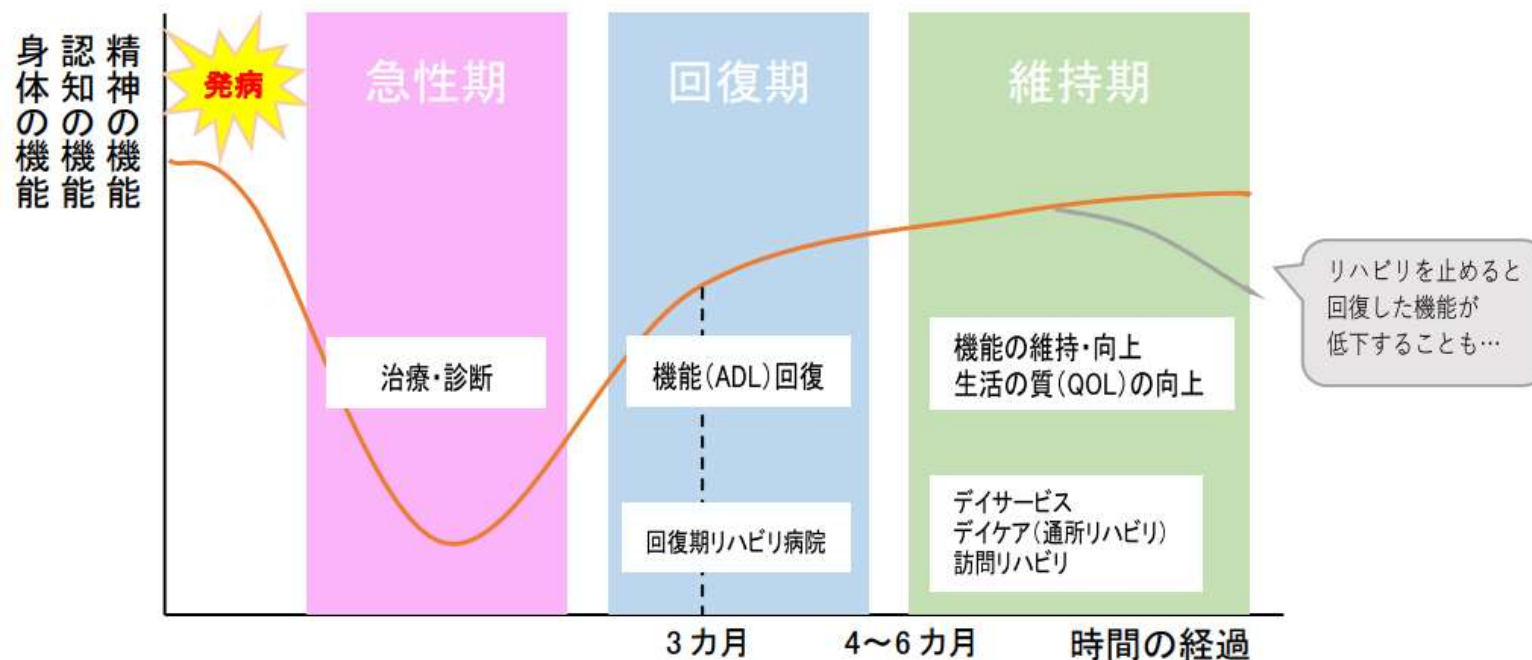
(1) 専門的知識を有した事業所の拡大が必要

- 有している障害者手帳としては、身体障害者手帳や精神障害者保健福祉手帳といった領域ではあるが、「**高次**」の「**脳機能**」を理解し、**回復段階**に身に合った**専門的支援が必要**である。
- **医療的な知識**や**就労支援**（**ジョブコーチ支援等**）の**専門性**を活かして**総合的にサポート**することが有効である。



(2) 状態に応じた休職期間の延長と支援が必要

- 脳は年単位で緩やかに回復の経過をたどるため、その方の**状態に応じた休職期間の延長など柔軟な対応**が必要です



脳損傷による身体障害、認知障害、精神的問題は、時間とともに改善することが多い。たとえ数週間でも、認知リハをどこかで受けて、自分の問題をある程度把握されている方が安全。

納谷敦夫『高次脳機能障害・脳損傷について～家族として、精神科医として～』（2020）

(3) 高次脳機能障害のある方にあわせた 復職プログラムの確立

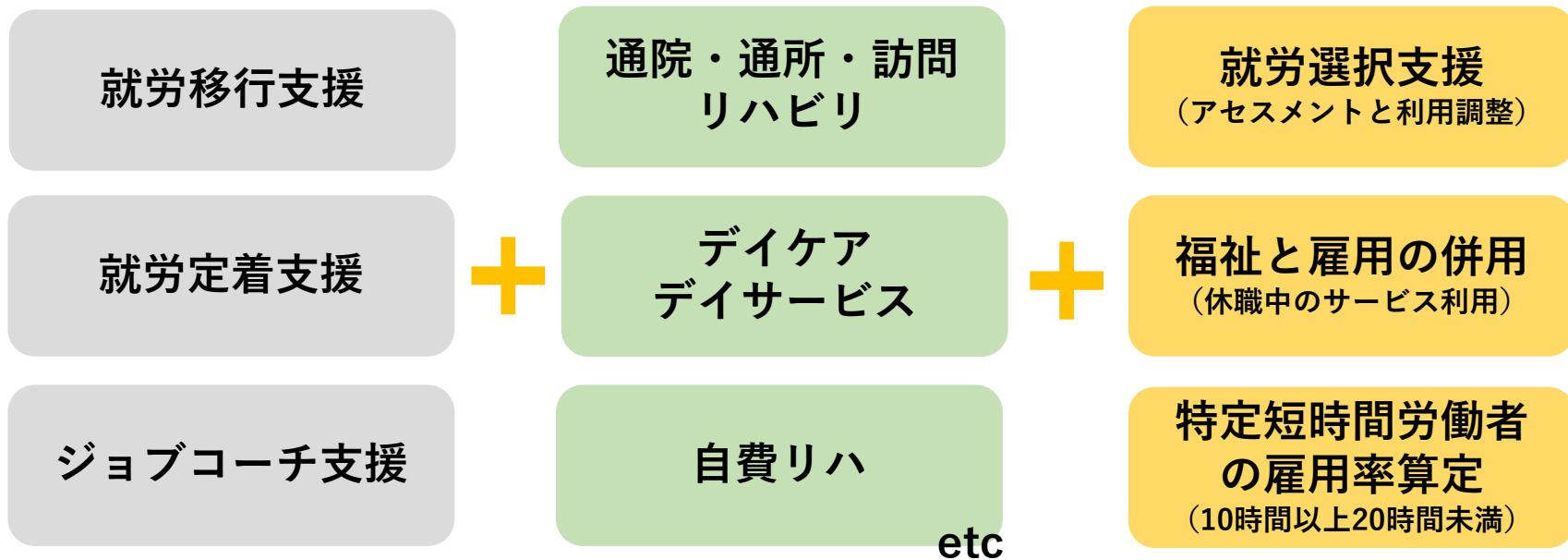
- 一見して分かりにくく、**障害特性が多様で複雑**であるため医療機関や就労支援機関からの情報を踏まえて客観的に整理し、本人に合った復職プログラムを立案し、進めていくことが必要。
- 従来リワーク支援の対象とされていたメンタルヘルスの方とは異なり、勤務日数や時間、仕事の量や質の調整だけに限らず、**業務の切り出しや再構築、特性に対する補完方法の実践、職場環境の構造化など、復職に向けた企業側との調整・協力体制が不可欠**である。
- 休職期間を有効に使い、再び戦力として働けるよう、**医療～障害福祉～企業の雇用管理に繋げる仕組みづくり**が重要である。

高次脳機能障害のある方を支える地域づくりへ

■ 既存の就労系支援

■ 脳と身体の回復を支える仕組み

■ 復職・新規就労を支える新たな仕組み



脳損傷後の職場復帰はリハビリ出勤などだけではなく『雇用と福祉の併用』など新たな制度に期待をしたい。